

八女市立図書館本館整備のサービス内容の検討

1. サービスの基本的な考え方

ここからは「暮らしを豊かにする図書館」の実現のために、提供するサービスについて検討します。

まず、前述のコンセプト「新芽のように」の考え方をサービス内容の切り口の検討のために解釈し、以下の大きく3つのテーマとしてまとめました。

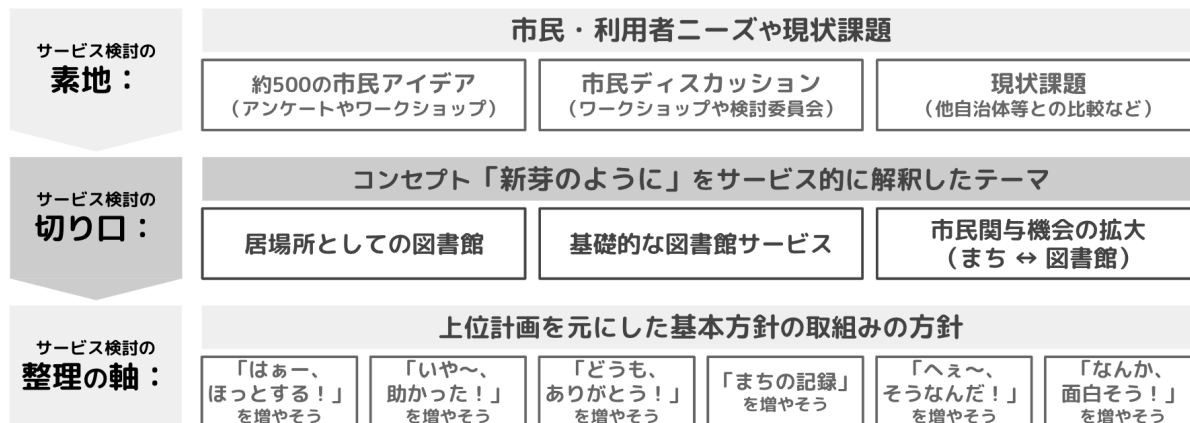
1つ目は、多様な世代/目的の人々が集い合える、「八女市の新たな可能性を育てる居場所」をつくることです。アンケートの中には、今の10-20代には市内に「居場所」がなく、つながりを求めているという声もありました。市民みんなの毎日の「暮らし」の中に自然に根付いていくために、若年層はもちろん、関わることの出来るみんなにとって居心地の良い空間をつくることをサービスを通じて目指したいと思います。

2つ目は「知識/情報へのアクセス」など「図書館としての基礎的なサービス機能」を充実させることを通じて、まちの中にたくさんの「知の芽、好奇心の芽、学びの芽などを新たに育み続ける」ことです。特に子どもたちに向けたサービスの充実は非常に重要であると考えます。

3つ目は、「市民みんなが育む」図書館となるように、本の貸し借りやレファレンスサービス以外にも、図書館との多様な関わりの機会を様々に拡大していくことです。より多くの市民の「暮らしを豊かに」するためにも、図書館の内外にも様々な市民接点をつくるようなサービスを実現し、図書館がまちに浸み出し、まちが図書館に入り込むような積極的な相互関与の構図を目指します。図書館との関与機会は図書館への愛着を生み、自分の「居場所」と感じることも促すと考えます。また、市民主体性が強く、民間主体のまちづくり活動も活発な八女市らしい切り口でもあると考えています。

上記の3点の切り口をテーマとして勘案の上で、アンケートやワークショップなどから生まれた市民発案の約500のサービスアイデアや、他自治体等との比較検討を元にした課題、検討委員会でのディスカッション等をサービス検討の素地とし、実現可能性を制約条件とし

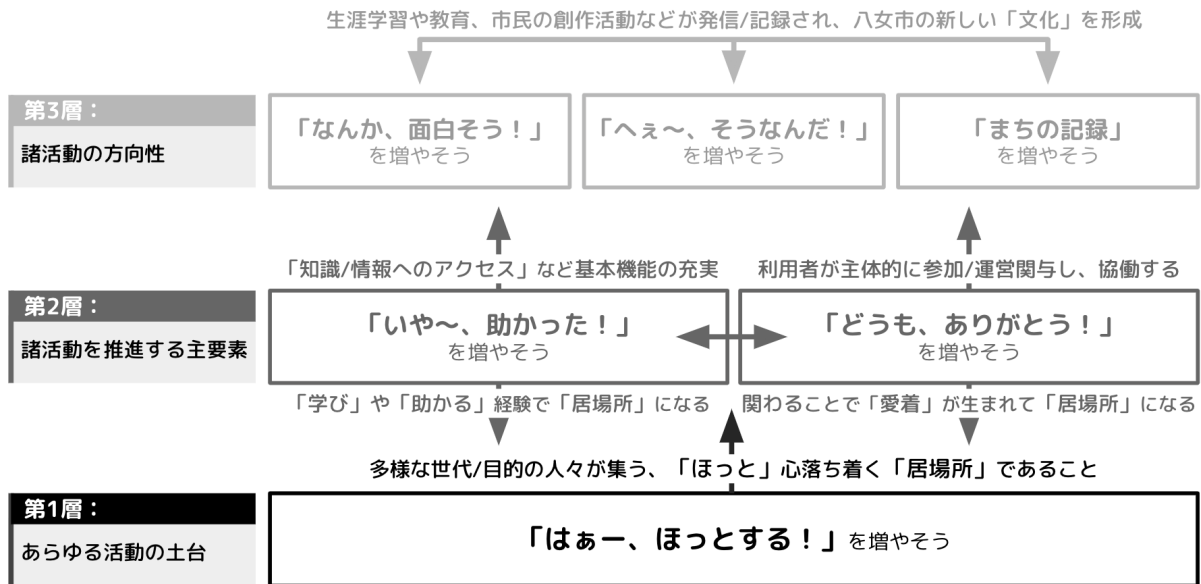
て一部考慮しながら、以下に基本方針の取組みの6つの方向性で整理して、サービス内容の検討をまとめます。



※サービス検討の制約条件：実現可能性・現実性（予算、スケジュールなどの大まかな想定）

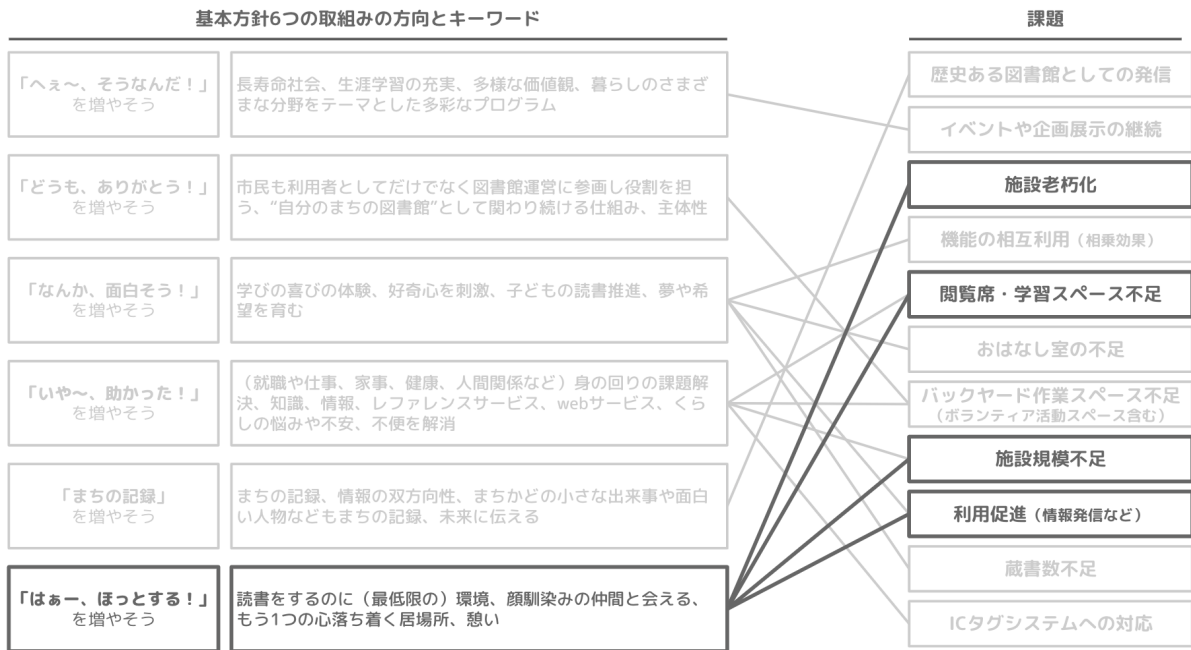
2. サービスの内容の検討

以下の図(再掲)の第1層から順番にサービスの整理を展開します。

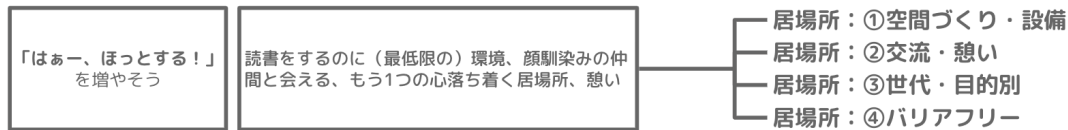


(1)「はあー、ほっとする！」を増やそうに関わるサービス

この方向性に関わる課題は下記です。



また、市民アイデアを元にした中分類は下記になります。



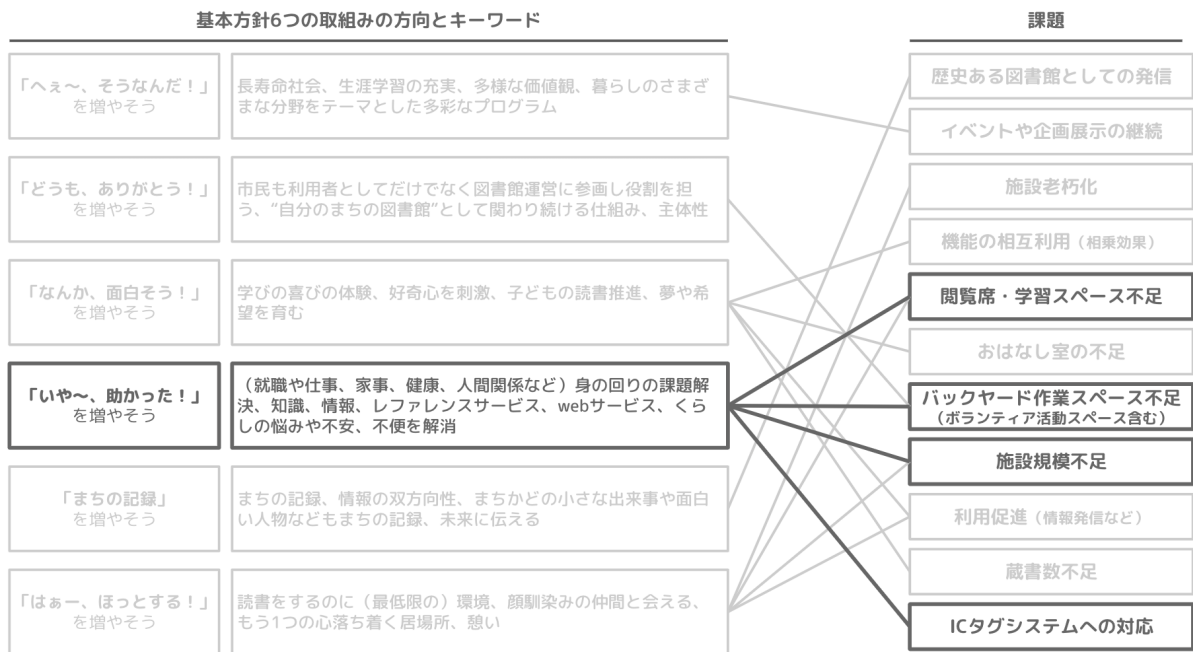
これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・自治体規模と蔵書目標に合わせた適切な広さの確保。特に閲覧席・学習スペースや駐車スペースを十分なレベルまで拡充
- ・Wi-Fi環境の整備
- ・市民が多目的に利用が可能な交流スペースを用意
- ・市民の活動諸室と連動した配架計画と書架(近くに押し付けがましくない範囲で活動のインスピレーションとなる棚づくり)
- ・各活動スペースと開架エリアをシームレスにつなぐ(本の回遊性を保ちつつ、居心地のよい読書環境を提供)
- ・カフェにも展開可能な厨房などのスペースや給茶機のある飲食可能スペースの設置(カフェを市民団体、企業等が月替わりなどで運営できる仕組みの検討)
- ・ゆったりした閲覧席、集中して学習できるスペース、会話が許容されるスペースなど、多様な目的で訪れるそれぞれの人が過ごしやすい空間づくり

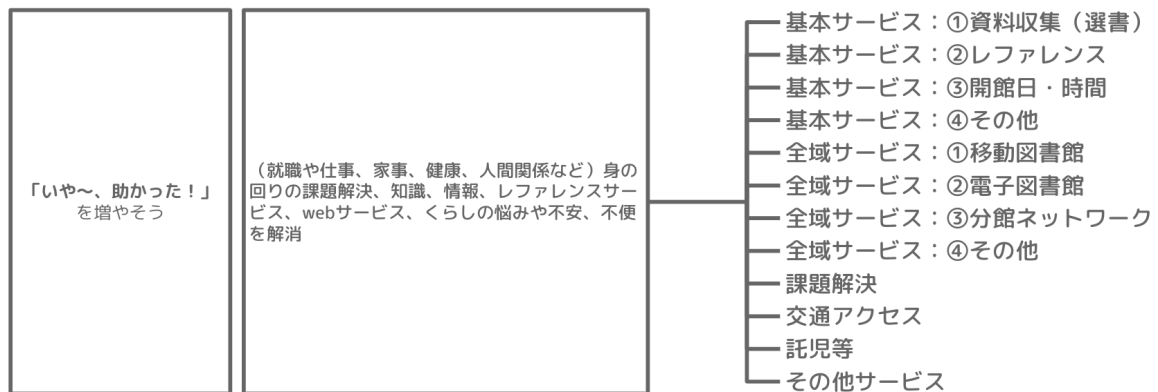
- ・館内にBGMを流す音響設備
- ・バリアフリーへの配慮
- ・全体にコンセプト「新芽のように」を解釈した空間設計
- ・図書館がまち中に浸み出すように「はあ～ほっとする」居場所をつくれる椅子やテーブルと本のセットの貸し出し

(2)「いや～、助かった！」を増やそうに関わるサービス

この方向性に関わる課題は下記です。



また、市民アイデアを元にした中分類は下記になります。



これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・あるべき規模に蔵書目標数を拡大
- ・資料については特に①児童向け／若者向けの図書、②専門書(特に個人入手が困難な本やお茶、宇宙など八女市に関連する本など)を拡充し、それに合わせた児童室やコーナーなどを設置
- ・レファレンスサービスを前面に出して強化する。具体的には①カウンターをより気軽に話しかけやすいかたちで設置、②認知度向上施策の実施、③オンラインレファレンスで分館から本館、本館から市役所や専門機関へつなぐことなどを想定

・仕事終わりの時間などに使いたいというニーズにあわせた開館時間の調整を検討(来年度以降の運営計画にてより具体化)

・分館と本館の関係について以下①②③の方針にて整理を推進

①本館は市全体を統括する図書館として、蔵書のストックヤード機能(物流拠点)を持ち、サービスを統括し、選書や各館の資料バランスの調整等市立図書館全体の方向性を打ち出す機能を持つことが基本

②だが、現在、分館はそれぞれ地域に根差した個性的なサービスを実施しているため、本館への整理は最小限とし、現状のサービスをなるべく継続するような方向で考える(ただし、来年度以降の運営計画にて、各館のコンセプトは整理し、もう少し具体化し、選書発注の方式等も再整備を行う)

③各エリアにおいても、空白地帯での返却BOX等の設置や移動図書館のコースなどの見直しを継続的に行う(本館に移動図書館のトラックヤードを設置)

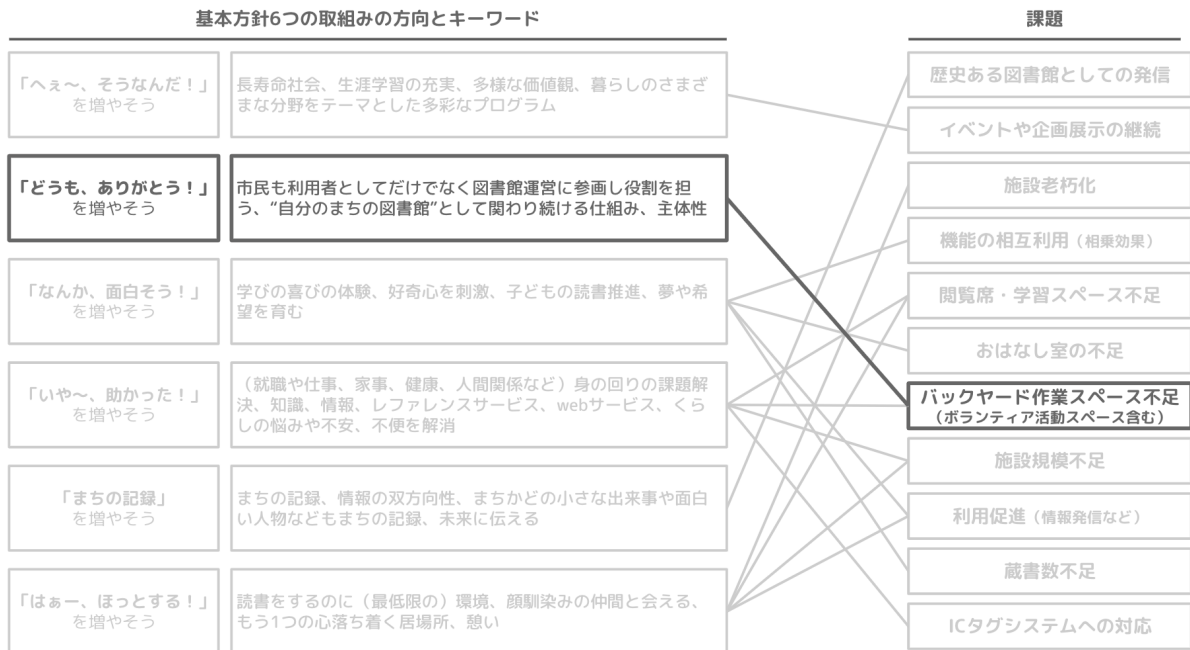
・児童向けには、一定の頻度で各エリアから本館への巡回バスを検討

・乳幼児向けには、現在一部分館でも実施している託児サービスを一定頻度で実施することを検討

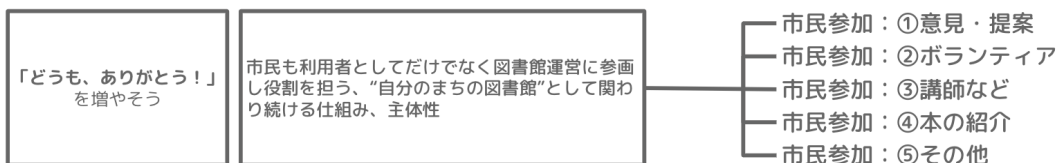
・その他、市民が図書館の基礎サービスに対しても意見を出せる機会を拡大

(3)「どうも、ありがとう！」を増やそうに関わるサービス

この方向性に関わる課題は下記です。



また、市民アイデアを元にした中分類は下記になります。



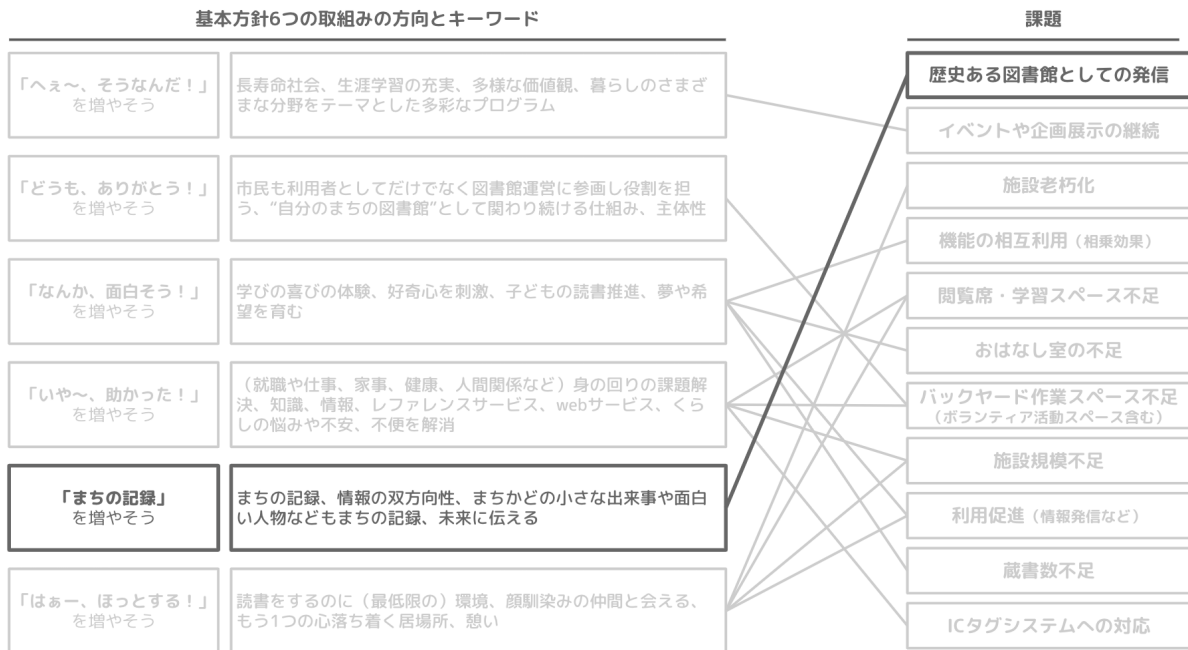
これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・開館までの期間にはワークショップ等を定期開催し、市民がつくりあげる図書館整備を推進。また、開館後も市民の意見・提案を募り、市民が積極的に運営に関わり提案しやすい場づくりを実現
- ・自然に投票(選択)に関われる仕組みを館内に用意して、気軽な運営への意見収集や市民関与の機会を提供(例:本の返却ポストがYes/Noの二口に分かれていたり、ゴミ箱が投票箱になっていたり、開架の中に投票コーナーがあるなど)
- ・市民が気軽に意見を交わせる交流スペースや市民活動室の提供
- ・布絵本の制作や読み聞かせ等のボランティアスペースの設置
- ・人の紹介(推薦)を広く募りながら講師(市民主体の講座企画)の運営の輪を広げ、高頻度で開催することで実施と参加のハードルを下げる
- ・市民による参加型選書企画を常時開催

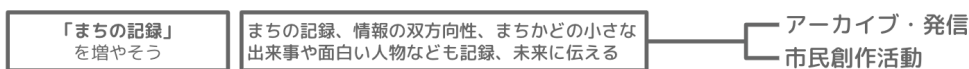
- ・市民が制作したものを、また別の人に届けることで、活動の循環を促す仕組みを検討(例:ワークショップで制作したしおりを、本にはさんで利用者に貸し出す。市民が制作した映像やビジュアルを図書館広報に使う、など)
- ・コミュニティ通貨 ロマン(まちのコイン)の積極活用。(例:図書館の内外で市民による図書館への関与(気軽なボランティアなど)によってロマンがたまり、たまったロマンを用いて、図書館本館内でドリンク無料など、様々なサービスを受けられる構図を検討)

(4)「まちの記録」を増やそうに関わるサービス

この方向性に関わる課題は下記です。



また、市民アイデアを元にした中分類は下記になります。



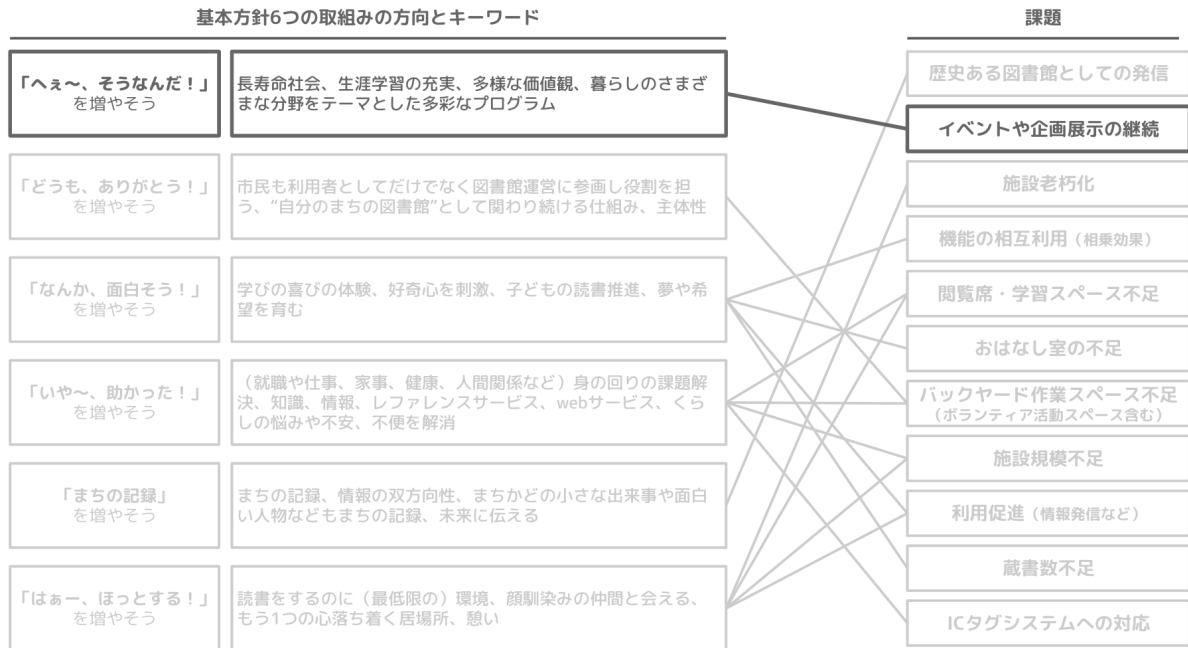
これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・デジタルを含むアーカイブを強化。映像はもちろん3Dデータ等も視野に入れ、あらゆる方法、媒体で図書館に資料を記録・保管
- ・貴重資料は順次デジタル化し、市民に公開・提供(市民が持つ写真等の資料もの収集も想定)
- ・分館にもそれぞれのテーマで、各エリアの歴史等を様々な世代に感じさせられる展示を推進
- ・市に関わる活動者の講演を企画運営し、その情報の記録を下記①②のように進める
 - ①基本的な考え方として、一番新しい情報は本でもSNSでもなく、活動の真ただ中にある人にあること。そのような方々をゲストに迎えた定期的なイベントの実施とその記録を行う
 - ②一方、これまで活動してきた人たちの知識は歴史の一部であり、そういった方々の講演も含めた活動を推進し、それらも記録する

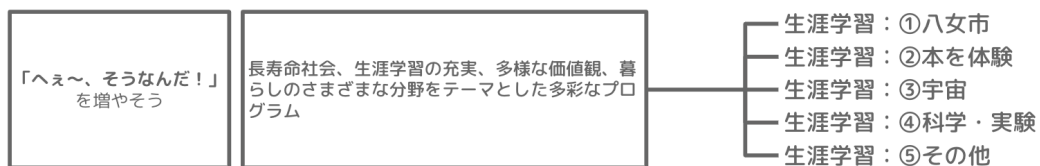
・スタジオスペースに印刷機、映像編集などの記録を残すための機器や、ものづくりの環境を整え、市民活動を支える(これらは誰でも使えるように図書館職員やボランティアが使い方サポート等を行い、定期的に市民講師等によるワークショップ等の開催を想定)

(5)「へえ～、そうなんだ！」を増やそうに関わるサービス

この方向性に関わる課題は下記です。



また、市民アイデアを元にした中分類は下記になります。

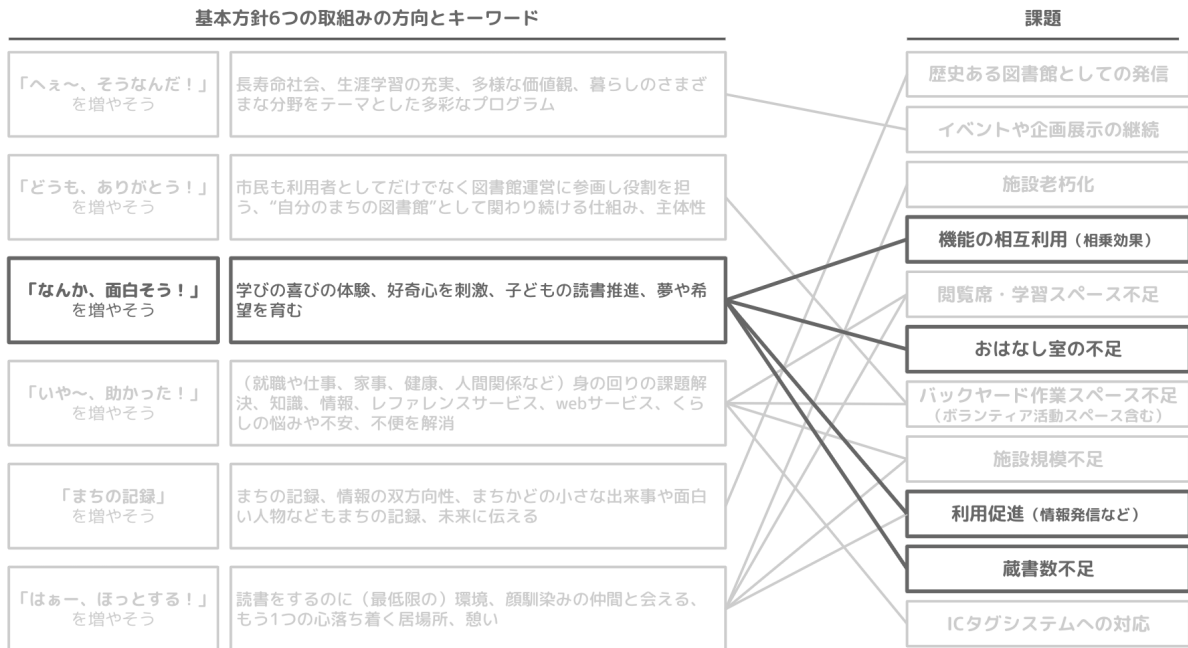


これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

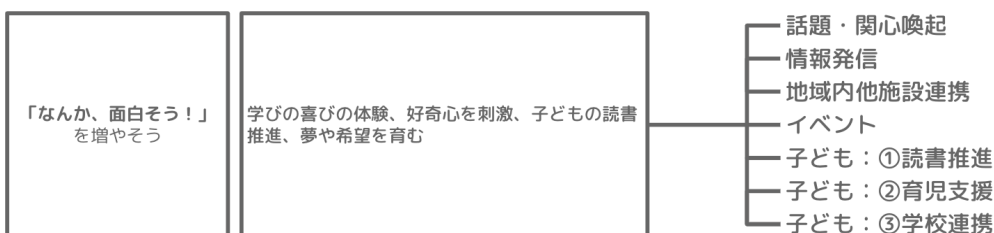
- ・生涯学習に役立つ資料収集、気づきを与える配架、活動を促す諸室、定期的な講座やコーナーの設置等を市民参加型の方法で開催
- ・講座やコーナーの初期テーマとして①八女市、②本を体感、③宇宙、④科学・実験を想定するが、テーマは市民アイデアを持続的に収集して拡大、更新、管理運用していくことを想定
- ・学校等と連携して継続的にテーマを集め、若年層の来館のきっかけをつくる
- ・移動図書館にも、このテーマや地域文化に関わるモノを乗せて巡回することを検討

(6)「なんか、面白そう！」を増やそうに関わるサービス

この方向性に関わる課題は下記です。



また、市民アイデアを元にした中分類は下記になります。



これらを踏まえて、サービス内容を以下のように考案します。

- ・利用者を飽きさせず、常に話題の提供ができるよう、月ごとにテーマ特集を組む。行事や季節に限らず、ときには市民主導でのマニアックな展示も依頼・運営
- ・普段図書館を利用しない人の来館を促すため、図書館に興味のない人々の関心も得られるイベントの実施。
- ・市民主催のイベントも積極的に支援し、十分な広さのイベントスペースを確保
- ・この図書館に来れば八女市全部が分かるようになる情報収集と発信。様々なモノの展示とそれにまつわる本により、魅力的な棚づくりや展示の運営(例:お茶、工芸品、アート、雑貨等)

- ・他施設と積極的に連携、地域文化のハブになる(例:他施設の情報を図書館で発信、他施設の実施したいプログラム等を図書館で実施、施設と連携した企画展示、施設同士をつなぐ役割)
- ・地域文化に関わるモノの貸し出し(八女の工芸品などを地域企業の協賛で受付、それらを貸し出すような仕組みを想定)
- ・若年層への電子図書館の認知拡大、関心喚起の施策
- ・市民はもちろん図書館員やボランティアも利用するスタジオを設置し、SNSや動画での配信等にも活用

3. サービスの全体像

以上のサービスの内容を整理したものが下記の表になります。(複数に横断する要素はより関連が強い項目に配置しています)

なお、これらのサービスはそれぞれ来年度以降に予定している管理運営計画でより具体的に検討、策定する予定です。特に「市民関与機会の拡大」についてはまさしく市民や関係者の意見をさらに取り入れながら、八女市らしい図書館とまちの関係を実現可能にしていきたいと考えています。

基本方針の取組みの方向

サービステーマ (コンセプト「新芽のように」のサービスの解釈)

	居場所としての図書館	基礎的な図書館サービス	市民関与機会の拡大 (図書館⇄まち)
「はあー、ほっとする！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> 適切な広さの確保。特に閲覧席・学習スペースや駐車スペースを十分なレベルまで拡充 Wi-Fi環境の整備 市民が多目的に利用が可能な交流スペースを用意 カフェにも展開可能な厨房スペースや給茶機のある飲食可スペース確保 館内にBGMを流す音響設備 全体にコンセプト「新芽のように」を解釈した空間設計 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の活動諸室と連動した配架計画と書架 各活動スペースと開架エリアをシームレスにつなぐ バリアフリーへの配慮 ゆったりした閲覧席、集中して学習できるスペース、会話が許容されるスペースなど、多様な目的で訪れるそれぞれの人が過ごしやすい空間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> カフェを市民団体、企業等が月替わりなどで運営できる仕組みの検討 図書館がまち中に浸み出すように「はあ〜ほっとする」居場所をつくれる椅子やテーブルと本のセットの貸し出し
「いや〜、助かった！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> 児童向けには、一定の頻度で各エリアから本館への巡回バスを検討 乳幼児向けには、現在一部分館でも実施している託児サービスを一定頻度で実施することを検討 	<ul style="list-style-type: none"> あるべき規模に蔵書目標数を拡大 資料は特に①児童向け/若者向けの図書、②専門書を中心に拡充し、合わせて児童室やコーナーなど設置 レファレンスサービスを前面に出して強化する(※具体策は別記) 開館時間の調整を検討 分館と本館の関係についての整理を推進(※方針は別記) 	<ul style="list-style-type: none"> その他、市民が図書館の基礎サービスに対しても意見を出せる機会を拡大
「どうも、ありがとう！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽に意見を交わせる交流スペースや市民活動室の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 市民による参加型選書企画を常時開催 布絵本の制作や読み聞かせ等のボランティアスペースの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 開館までのワークショップ等の定期開催。開館後も市民の意見・提案を募り、市民が積極的に運営に関わり提案しやすい場づくり 自然に投票(選択)に関われる仕組みを館内に用意 市民講師(講座)の運営を広げる 市民が制作したものを、また別の人に届けることで、活動の循環を促す仕組みを検討 コミュニティ通貨 ロマン(まちのコイン)の積極活用。
「まちの記録」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> 分館にもそれぞれのテーマで、各エリアの歴史等を様々な世代に感じさせられる展示を推進 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルを含むアーカイブを強化あらゆる方法、媒体で図書館に資料を記録・保管(貴重資料は順次デジタル化し、公開・提供) 	<ul style="list-style-type: none"> 市に関わる活動者の講演を企画運営し、その情報を記録する スタジオスペースに印刷機、映像編集などの記録を残すための機器や、ものづくりの環境を整え、市民活動を支える
「へえ〜、そうなんだ！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> 学校等と連携して継続的にテーマを集め、若年層来館のきっかけに 移動図書館にも、地域文化に関わるモノを乗せて巡回することを検討 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に役立つ資料収集、気づきを与える配架、活動を促す諸室、定期的な講座やコーナーの設置等を市民参加型の方法で開催 	<ul style="list-style-type: none"> 講座やコーナーの初期テーマは市民アンケートをもとに想定するが、市民アイデアは持続的に収集し、更新、管理運用していくことを想定
「なんか、面白そう！」を増やそう	<ul style="list-style-type: none"> 市民主催のイベントも積極的に支援し、十分な広さのイベントスペースを確保 他施設と積極的に連携、地域文化のハブになる 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者を飽きさせず、常に話題提供ができるよう、月次でテーマ特集 この図書館に来れば八女市全部が分かるようになる情報収集と発信。様々なモノの展示とそれにまつわる本により、魅力的な棚づくりや展示の運営 若年層へ電子図書館認知拡大施策 	<ul style="list-style-type: none"> 普段図書館を利用しない人の来館を促すため、図書館に興味のない人々の関心も得られるイベント実施 地域文化に関わるモノの貸し出し 市民はもちろん図書館員やボランティアも利用するスタジオを設置し、SNSや動画での発信等にも活用